

○主な課題と対策

課題1 コロナ陽性患者の増加に伴い、医療機関における入院受入病床が実質、満床であり、医療体制が危機的な状況となっている

- 対策 ①医療体制の崩壊を防ぎ、市民の命を守るため、5月5日に札幌市、北海道をはじめとした全9機関・団体の共同により「札幌市医療非常事態宣言」を発令した。
- ②感染症法第16条の2の規定に基づき、市内全医療機関（約1,600）に対し、入院受入病床の確保、医療従事者の派遣、在宅診療の実施体制の確保、外来診療・検査等の実施体制の確保について協力要請を行った。
- ③従来であれば入院できた方が、すでに数多く自宅療養、自宅待機せざるを得ない状況となっているため、入院待機ステーションの設置により入院までの一時待機場所を確保するとともに在宅往診体制の充実に向けて協力を求めている。

課題2 変異株などの影響により、感染が急激に拡大している

- 対策 ①人流の抑制をさらに加速させるため、出勤者数7割削減や臨時休業・営業時間の短縮を要請していく。
- ②市役所・区役所等の機能の一部を停止し、1,000人規模の職員を動員し、保健所機能を強化していく。（各区にコロナ対策室の設置など）

課題3 病院や福祉施設などでの集団感染事例が依然として発生している

- 対策 ①重症化リスクの高い療養病床を有する医療機関、精神科を標榜する医療機関、透析を実施している医療機関および入所型高齢者施設・障がい者施設におけるスタッフに対する予防的スクリーニング検査を実施することで、早期発見による感染まん延防止を推進する取組を実施していく。
- ②クラスターが発生した施設や病院に対しては、早期の介入のもと、クラスター発生への対応、PPEの着脱方法やゾーニングの手法などについて確認を行い、施設や病院をサポートするよう支援を行っている。
- ③医療提供体制を継続していくため、医療従事者へのワクチンの早期の接種を推進していく。

課題4 感染者や関係者、医療従事者等への差別や中傷、デマといったものが全国各地で報告され社会問題化してきている

- 対策 ①コールセンター、人権相談窓口などの相談体制を整えて、困りごと等があれば相談するよう呼び掛けている。
- ②医療従事者応援プロジェクトとして、北海道日本ハムファイターズと連携した差別・偏見防止の動画や啓発ポスターを市内各所に掲出するなどの取組を通じて、互いに思いやる気持ちの醸成を図っていく。

課題5 ワクチン接種の接種環境などを整備していく必要がある

- 対策 ①かかりつけ医での個別接種の実施を推進していく。
- ②大学等の協力を得ながら、集団接種会場などの接種環境の整備を進めていく。